

A nighttime photograph of the Kobe Port Tower, illuminated in warm orange and yellow lights. The tower's top section is labeled 'THE PORT OF KOBÉ'. To the right, a tall, modern skyscraper is lit up, and a large, curved structure with a green, grid-like facade is visible. The lights from the buildings and the tower are reflected in the dark water in the foreground.

第25回  
模擬国連会議関西大会  
大会ガイドブック

# 本書について

本ガイドブックは、第25回模擬国連会議関西大会の参加者募集にあたって、本大会の全体像や魅力を発信することを目的に作成いたしました。参加申込方法の詳細や大会スケジュール、会議紹介などを掲載しています。

募集要項及び本ガイドブックをご一読の上参加申込いただけますと幸いです。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

第25回模擬国連会議関西大会運営事務局

## 目次

目次	2
1. 事務総長挨拶	3
2. 大会コンセプト紹介	4
3. 参加申込について	5
3-1. 参加対象者	5
3-2. 募集人数	5
3-3. 参加申込の流れ	6
3-4. 参加費・宿泊費	7
3-5. 宿泊について	9
3-6. レセプションについて	10
3-7. 朝食・昼食・夕食について	10
4. 大会前スケジュール	11
5. 大会当日スケジュール	12
6. 会議紹介	13
グローバルな発展と多様性のための移民統合会議   Agora	14
少数民族高等弁務官の設置   再構築	17
占領下にあるアラブ領域の情勢   ~Pursue It Eagerly~	20
ウィーン宣言及び行動計画   Stairs	23
COP27（気候変動枠組み条約第27回締約国会議）	25
サイバーセキュリティに関する政府専門家会合	28
ボスニア・ヘルツェゴヴィナ情勢   「Root」	31
7. お問い合わせ	33
8. 公式HP・SNS	33
9. 事務局員紹介	34

## 1. 事務総長挨拶

---

本資料をご覧くださいありがとうございます。第25回模擬国連会議関西大会運営事務局の事務総長を務めております、武田もなみと申します。

模擬国連とは、一国の大使になりきり、実際に行われた国際会議を模擬することで、国際社会への理解を深める活動です。当時の国益や社会状況を前提に進めるものではありませんが、そのうえで史実とは異なる判断をする大使もいれば、史実に忠実に交渉を進める大使もいます。経験豊富な先輩方や優れたセンスを持つ同期との会議は、想像以上に思い通りに進まず、自分の目標とは異なる結果に終わり、悔しい思いをすることもあります。しかし、それこそが模擬国連の面白さなのではないでしょうか。

「自分だったらこうするのに」と思いながら取り組んだ会議で思うようにいかないとき、国際社会の真髄を感じることが出来ます。多種多様な国やイデオロギーが存在する国際社会では、実際の大使や各国の要人も、さらに歯がゆい思いをしているのだらうと考えると、少し親しみを感じるのです。同時に、国際社会における各国の思惑の錯綜や矛盾を実感し、より立体的な視点で国際社会を捉えられるようになります。

学術的な要素が大きいように見える活動ですが、実際には高度な戦略や交渉術も必要とされ、総合的な能力が問われます。一つの会議の準備には、およそ1~2か月を要し、参加者はわずか2日間ほどの会議のために情熱をかけて準備を行います。そのような大学生が一堂に会し、一つの会議を作り上げることで生まれる臨場感は、ひと夏を捧げる価値があるでしょう。

模擬国連の全国大会の中で、年度内で最も早い時期に開催されるのが、今回の関西大会です。新入生にとっては初めての会議となり、模擬国連の価値を強く実感できる機会となるでしょう。また、それ以外の方にとっても、関西大会は一年間の模擬国連活動の方向性を左右する、いわば「分岐点」とも言える大会であり、非常に重要な意味を持ちます。そのような関西大会の意義を参加者全員が最大限実感できるよう、円滑な運営を心がけてまいります。

最後になりますが、これまでの本活動ならびに本大会が、関係者の皆さまのご協力のもとで実現できていることに深く感謝申し上げますとともに、今後ともご理解とご支援を賜りますよう、何卒よろしく願いいたします。

第25回模擬国連会議関西大会運営事務局  
事務総長 武田もなみ

## 2. 大会コンセプト紹介

---

---

# LIBRARIUM

---

---

模擬国連とは何か？

この問いの答えが一堂に集まり、一つの会議を、大会を作りあげていくのが全国大会ではないでしょうか。

そんな模擬国連を象徴する言葉として、ラテン語で「図書館」を意味する”LIBRARIUM”という言葉コンセプトを選びました。

“LIBRARIUM”は、本や知識の集まりを意味すると同時に、知恵と物語の冒険の場でもあります。模擬国連という舞台が、まるで図書館で未知の本を手にとったときのように、参加者一人ひとりに刺激と感動を与え、またそのような体験から自分の世界の枠を超え、世界を広げることができるような場になることを目指し運営してまいります。

参加者だけでなく運営に関わる全ての方々が、一つの会議というストーリーを共に紡ぐ「共著者」として、この関西大会に関わっていただければ幸いです。

## 3. 参加申込について

### 3-1. 参加対象者

---

#### 以下の2つの条件を満たす者

- ・高校生、大学生、大学院生及びその他の事務局が参加を認めた者
- ・大会規約並びに、本大会の募集要項その他の事務局が定める規約等を読み、承諾したもの

#### ただし、以下のいずれかに該当する者を除く

- ・本規約または事務局が別に定める注意事項等に違反した場合
- ・参加申込の内容に虚偽や不正があった場合
- ・参加申込が不当または不適切な目的をもってなされた場合
- ・他の参加者に不当に迷惑をかけた場合
- ・事務局の注意または指示に従わない場合
- ・暴力団等に現在関与し、あるいは過去に関与していた場合
- ・過去の日本模擬国連が主催した大会において参加費の未納があり、かつ現在においても当該参加費が未納の者
- ・その他、参加者として不適切または何らかの危険が生じるおそれがあると事務局が判断した場合

### 3-2. 募集人数

---

全会議（7会議）合計：248人

＊各会議の募集人数は[HP](#)の会議紹介からご確認ください。

### 3-3. 参加申込の流れ

一次募集	5/13 (火) 12:00-	<p><b>申込方法</b></p> <p>①HP掲載の参加申込フォーム【事務編】を記入して提出</p> <p>②自動送信で参加申込フォーム【会議編】が送られます。①の後必ずメールを確認してください。 *【事務編】提出後、1時間たってもメールが届かない場合は <a href="mailto:kmunc25info@gmail.com">kmunc25info@gmail.com</a>までご連絡ください。</p> <p>③参加申込フォーム【会議編】を記入して提出</p> <p><b>参加申込フォームについて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加申込フォームは【事務編】と【会議編】の2つです</li> <li>・【会議編】の提出をもって申込完了となります</li> <li>・<b>6/13 (金) 23:59までに必ず【会議編】を提出してください</b></li> </ul> <p><b>注意</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加申込は参加申込フォーム【会議編】の先着順で受け付けます。</li> <li>・募集人数に達した場合、予告なく募集を締め切る場合があります。</li> <li>・募集締切の時点で申込人数が募集人数を上回った場合、募集人数を超えるお申し込み分については受け付けない場合があります。</li> <li>・日本模擬国連に所属しない希望者の申込数が一定数を超えた場合、事務局の裁量により、日本模擬国連所属者を優先して参加を認める場合があります。</li> </ul>
	6/13 (金) -23:59	
議場決定	6/20 (金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一次募集でお申込みいただいた方に、参加していただく議場をメールにてお知らせします。</li> <li>・今後の予定や連絡方法など、重要な内容が含まれているので必ずご確認ください。</li> </ul>
二次募集	6/21 (土) 12:00	<p>一次募集で定員に達しなかった場合のみ行います。</p> <p><b>申込方法</b> 一次募集と同じ</p> <p><b>参加申込フォームについて</b> 一次募集と同じ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>6/28 (土) 23:59までに必ず【会議編】を提出してください</b></li> </ul>
	6/28 (土) 23:59	<p><b>注意</b> 一次募集と同じ</p>
議場決定	7/1 (火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二次募集でお申込みいただいた方に、参加していただく議場をメールにてお知らせします。</li> <li>・今後の予定や連絡方法など、重要な内容が含まれているので必ずご確認ください。</li> </ul>
振込	7/4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7/4 (金) 23:59までに参加費・宿泊費を指定の口座にお振り込みください。</li> </ul>

<b>締切</b>	<b>(金) 23:59</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お振り込み先の口座は、参加申込フォーム【会議編】提出後のメールでご案内します。</li> <li>・お申込み内容と振込金額に間違いがないようご注意ください。</li> </ul>
-----------	----------------------	---

### 3-4. 参加費・宿泊費

#### ○参加費

1人 ￥15,000

#### ○宿泊費<sup>1</sup>（宿泊を希望する方のみ）

1人 ￥12,100/泊

#### ○振込期限

7/4（金）23:59

#### ○振込先

お振り込み先の口座は、参加申込フォーム【会議編】提出後のメールでご案内します。  
\*一括でお振り込みください。

#### ○キャンセルについて

キャンセル料・キャンセル方法はHP掲載の[キャンセルポリシー](#)をご確認ください。  
キャンセルポリシー指定の方法以外の方法でのキャンセルは受け付けません。

#### ○お支払額一覧

宿泊数	お支払額
なし	<b>15,000円</b>
大会期間のみ宿泊（2泊）	<b>39,200円</b>
大会期間宿泊+前泊（3泊）	<b>51,300円</b>
大会期間宿泊+後泊（3泊）	<b>51,300円</b>
大会期間宿泊+前後泊（4泊）	<b>63,400円</b>

#### （参考）参加費の内訳

項目	金額
施設・設備費	9,000
レセプション費	4,500
記念品代	200
雑費	1,300

<sup>1</sup> 宿泊についての詳細は「3-5. 宿泊について」でご確認下さい。

合計	15,000
----	--------

\*1人あたりの暫定概算額です。

\*助成金や協賛金は、諸経費（印刷費、通信・郵送費など）の一部にあてています。

## 3-5. 宿泊について

以下の内容で、事務局から宿泊施設をご用意しています。

\*宿泊は任意です。

\*市民広場駅からホテルと会議場は屋根付きの歩道橋で繋がっています。アクセスの良さや過去の大会で満足度が高かったことから、神戸ポートピアホテルにご滞在していただくことをお勧めしています。

宿泊先：

神戸ポートピアホテル

料金：

1泊12,100円（税込み・朝食付き）

客室：

ツインルームの相部屋を予定しています

宿泊日：

以下の選択肢の中からお選びいただけます。

- ・大会期間のみ宿泊（8/27-8/29の2泊）
- ・大会期間宿泊＋前泊（8/26-8/29の3泊）
- ・大会期間宿泊＋後泊（8/27-8/30の3泊）
- ・大会期間宿泊＋前後泊（8/26-8/30の4泊）

部屋割りについて：

・同室宿泊者希望なし

▶同じ会議、同性の方の中で、所属研究会・国割・宿泊日等を考慮して事務局・フロントが部屋の割り振りを行います。

・同室宿泊者希望あり

▶同室宿泊を希望するお相手と合意の上、その方の氏名を参加申込フォームにご記入ください。原則、宿泊日は同じにさせていただくようお願いします。

### 3-6. レセプションについて

---

大会参加者の交流促進を目的に、閉会式後に行う立食パーティー形式でレセプションを行います。

日時：

8/29（金）19:00-21:00

会場：

アリソンホテル神戸 バルセロナ宴会場

＊会議場から徒歩5分

追加費用：

なし（参加費に含まれています）

ドレスコード：

フォーマルな服装（スーツなど）

＊ホテルの宴会場で行うパーティーです。ラフな服装（スウェットやジャージなど）はお控えください。

＊閉会式・写真撮影の終了後、ドレスなどに着替えが必要な方は事前に場所（ホテルの自室など）を確保したうえでご支度ください。また、閉会式・写真撮影の終了時刻は大幅に前後する場合がありますため、あらかじめご注意ください。

### 3-7. 朝食・昼食・夕食について

---

朝食：

神戸ポートピアホテルに宿泊される方は朝食のご用意があります。

昼食：

事務局からお弁当等の仕出はありません。各自でご用意ください。

夕食：

事務局からお弁当等の仕出はありません。各自でご用意ください。

なお、大会3日目のレセプションではフードサービスをご用意しております。

## 4. 大会前スケジュール

日程	申込に関する予定	イベント
5/13 (火)		
6/7 (土)	参加申込期間 (一次募集)	座談会
6/13 (金)		
6/20 (金)	議場決定 (一次募集)	
6/21 (土)	参加申込期間 (二次募集)	
6/28 (土)		
7/1 (火)	議場決定 (二次募集)	
7/4 (金)	参加費・宿泊費振込締切	
8/2 (土)		プロシージャ－勉強会

\*会議に関する予定 (BG配布や勉強会など) は、議場決定後に連絡されます。

\*「アプライ前メンター」等、参加申込前の相談を受け付けている会議もございます。議場選びの参考にぜひご活用ください。

\*詳細は各会議のSNSからご確認いただけます。

### ▶座談会について

座談会とは、全7会議のフロントが集まり、会議の魅力や議題の詳細について語る会のことです。お申込みに迷われている方や議場選びに迷われる方はぜひご参加ください！

日時：6/7(土) 19:00-21:00

場所：@zoom (アーカイブ配信有)

申込方法：[HP](#)からお申込下さい。

申込締切：6/4(水) 23:59

\*定員 (80名) に達した場合、早めに回答を締め切る場合があります。ご了承ください。

### ▶プロシージャ－勉強会について

通活のような形で、模擬国連のプロシージャ－(会議の進め方)の勉強会を予定しています。プロシージャ－に自信がない方・理解を深めたい方はぜひご参加ください！

日時：8/2 (土) 時間未定

場所：@zoom (予定)

申込方法：後日SNS等でお知らせします

## 5. 大会当日スケジュール

時間	内容
<b>一日目 (8/27)</b>	
12:00-13:00	開会式
13:30-20:00	会議
<b>二日目 (8/28)</b>	
9:30-20:00	会議
<b>三日目 (8/29)</b>	
9:30-12:00	会議
13:30-15:30	レビュー
16:00-17:30	閉会式
17:30-18:00	写真撮影
19:00-21:00	レセプション

\*時間や内容は今後変更される場合があります。

\*より詳細なタイムテーブルは大会1か月前を目途にお知らせします。

## 6. 会議紹介

本大会は計7つの会議を催します。個性豊かなフロントが皆様のご参加をお待ちしています！会議についての詳細は[HP](#)でもご覧いただけます。



### グローバルな発展と多様性のための移民統合会議

会議監督 藤原碧海・平林瑞己  
コンセプト Agora



### 少数民族高等弁務官の設置

会議監督 西鴻一  
コンセプト 再構築



### 占領下にあるアラブ領域の情勢

会議監督 袁清于  
コンセプト ~Pursue It Eagerly~



### ウィーン宣言及び行動計画

会議監督 河内百々  
コンセプト Stairs



### COP27（気候変動枠組み条約第27回締約国会議）

会議監督 杉本幹太  
コンセプト ほころびをつむぐ



### サイバーセキュリティに関する政府専門家会合

会議監督 菊池直樹  
コンセプト 向こう岸で見る夢



### ボスニア・ヘルツェゴヴィナ情勢

会議監督 久保裕貴  
コンセプト 「Root」



## フロント

会議監督	藤原碧海   早稲田大学政治経済学部   早稲田研究会老メン
会議監督	平林瑞己   早稲田大学政治経済学部   早稲田研究会老メン
議長	林陽菜   東京外国語大学国際社会学部   国立研究会老メン
セク長	前坂海英   上智大学法学部   四ツ谷研究会老メン
秘書官	大野いちこ   東京外国語大学国際社会学部   国立研究会老メン
秘書官	玉岡柚子香   東京大学工学部   駒場研究会老メン

## 公式SNS

X : [@KMUNC25\\_migd](#) ・ Instagram : [@kmunc25\\_migd](#)

## 事前交渉・事前会合

- 政策提言ペーパー
  - 提出期限：事前会合の3日前頃
  - 内容：議題に対する自国の立場や政策を整理し、明文化した文書
- 事前会合
  - 実施日程：8/18 (月)～8/21 (木) のうち、いずれかの13:30-17:00
  - 形式：オンライン
  - 内容：提出された政策提言ペーパーに基づく、各国大使による説明と質疑応答

## 会議紹介

### ○議題について

現代社会において、移民統合は国際社会の持続的発展と多様性の促進において極めて重要な課題となっています。グローバル化の進展に伴い、各国は経済的・社会的な観点から移民を受け入れる機会を増やしてきました。しかし、その一方で、移民の受け入れ政策や社会統合の方法については国ごとに異なり、多くの国が国内の利害関係や政治的要因による課題に直面しています。

特に近年、各地で権威主義の台頭や排外主義的な動きが強まり、移民政策を巡る議論が活発化しています。例えば、アメリカではトランプ政権時の移民政策の厳格化に伴い、メキシコ国境における壁の建設や移民の親子分離政策などが国内外で批判を浴びました。また欧州においては、シリア紛争に伴う難民流入が2015年以降急増し、ドイツが当初寛容な受け入れ政策をとった一方で、ハンガリーやポーランドなどでは難民

受け入れ拒否や厳しい国境管理政策がとられ、EU内で政策の分断が生じました。さらにフランスでは、移民・難民の社会統合の遅れが貧困地区における治安問題やテロリズムとの関連性を指摘されるなど、統合政策の実効性が問われています。

移民政策を巡るこうした動向を踏まえ、本会議は、各国が直面する課題を共有し、持続可能かつ包摂的な移民統合の方策を多角的に検討する場を提供するものであります。

### ○コンセプトについて

#### 1. 伝えたいメッセージ

「Agora (アゴラ)」は、古代ギリシャにおける公共の広場を指します。市場や集会所として機能すると同時に、自由な議論や情報交換の場でもありました。このアゴラ精神は、民主主義の発展に寄与し、多様な立場を持つ人々が対話を通じて理解を深める場として重要な役割を果たしました。

本会議では、政策立案を通じて「対話」の重要性を強調することを目的としています。そのため、会議の設計において、アゴラのような「異なる背景や立場を尊重しながら共通の理解を築く自由な対話の場」となることを目指しています。このコンセプトを通して、参加者が「対話を通じた相互理解の重要性」を実感し、それが統合や協力の基盤となることを伝えたいと考えています。

## 2. 議題との関連性

また、古代ギリシャの歴史を振り返ると、中央アジアからインド＝ヨーロッパ語族の民族が移住し、その影響がギリシャ文化の形成に大きく寄与しました。この背景は、「移民の貢献」というテーマと密接に関連しており、現代における移民排斥の風潮に対する一つのアンチテーゼを提示するものです。移民を単に「他者」として排除するのではなく、彼らが社会に果たしている役割や貢献に目を向けることが求められています。

また、ソクラテスをはじめとする古代ギリシャの哲学者たちは、対話を通じた思考の深化を重視し、さまざまな社会的・政治的課題について議論を展開しました。アゴラに集った市民、外国人、移民は、対話を通じて互いの理解を深め、社会の統合を図る重要な役割を果たしていました。この形態は、まさに本会議の議題である **integration (統合)** の本質と一致するものです。

## ○会議の特徴

### 1. 政策立案型

本会議の特徴は、現代の国際社会が抱える課題に対して具体的な政策を考案する「政策立案型会議」を採用していることです。これは、世界最大級の模擬国連会議である全米大会で採用されているスタイルであり、現在の日本模擬国連で主流の会議形態（自国 vs. 他国）とは異なり、国際社会が丸となって社会問題への解決に立ち向かうという視点（国際社会 vs. 国際問題）で議論を進めます。そんな政策立案型会議をより多くの方に体験してもらうべく、本会議では、政策立案型会議のフローを関西大会仕

様に最適化し、日本で主流な会議形態のエッセンスも取り入れながら、対話を重視した設計を施しています。そのため、模擬国連経験者でも未経験の方でも、新鮮で充実した経験を得ることができます。

今回の議題である移民統合にまつわる問題は、国や地域によって立場や政策が大きく異なるため、議論の過程で意見の対立が生じることもあるでしょう。しかし、その違いこそが本会議の醍醐味です。対話を通じて共通点と相違点を洗い出し、互いに納得のいく政策や決議案を模索することで、多様な視点が交わる意義深い議論が生まれます。本会議の魅力は、皆さんのアイデアを存分に活かしながら、より良い社会の実現に向けて建設的で実践的な議論を深められる点にあります。

## 2. 充実したサポート体制

アプライ前からレビューまで一貫して、大使が「模擬国連のあり方」や「自分の成長したいポイント」を意識し、会議を通じてそれを実現する場を提供します。そのために、会議を経て大使が新たな価値観や自分に出会えることを目標に、充実したサポート体制を整えています。

Background Guideでは、議題や論点を解説するだけでなく、大使が当日の議論の進行をイメージしやすいよう、政策立案の基礎知識や議論の進行フロー、重視すべき価値観を明示し、リサーチの指針を提供します。

勉強会（録画配布付き）では、政策立案型会議のフローやノウハウ、議題について解説し、誰一人取り残さずにすべての大使が準備を進めやすい環境を整えます。

メンター制度では、それぞれのニーズに合ったサポートを提供します。政策立案のメンターを経験してきたフロントメンバーですので、安心して会議準備に臨んでいただけます。

## 3. 余裕を持った会議準備

本番10日前頃を目安に、自国の政策を政策提言ペーパーにまとめてもらい、全体で共有します。また、本番7日前頃には事前会

合を開催し、大使が政策提言ペーパーの内容を説明し、質疑応答を通じて互いの政策を明確にします。これにより、会議本番での議論がより深まることを目指します。

政策提言ペーパーや事前会合を通じて、本会合直前の負担を軽減し、余裕を持って認識を共有できる会議準備を目指しています。事前会合に参加できない場合でも、他の大使に聞きたい質問を事前に共有していただくことや、議事録や録画の共有を通じてサポートいたしますので、ご安心ください。

#### **4. Agora Forum**

決議案採択後には、Agora Forumというディスカッションの場を開催し、本会議の

振り返りや模擬国連のあり方、自身の成長ポイント、さらには議題についての考えや気づきを、大使人格を離れて対話・意見交換する機会を設けます。

#### **○会議監督より一言**

多様性が謳われる一方で、世界は今、分断と対立を深めています。だからこそ、異なる視点をぶつけ合い、対話によって乗り越える場が必要です。私たちの政策立案型会議は、そのための一歩となるはずですが、世界を少しでも温かくするヒントが、あなたの中に眠っているかもしれません。皆様のご参加を、心よりお待ちしております。



## フロント

会議監督	西鴻一   東京大学理学部   駒場研究会老メン
議長	内田鉦輔   一橋大学法学部   早稲田研究会老メン
セク長	古村紫織   上智大学法学部   四ツ谷研究会老メン
秘書官	新地夏樹   国際基督教大学教養学部   国立研究会老メン
秘書官	小名木勇人   国際基督教大学教養学部   国立研究会老メン

公式SNS X : [@KMUNC25\\_hcnm](#) • Instagram : [@kmunc25\\_hcnm](#)

事前会合 なし

## 会議紹介

### 〇議題について

「つい先年までどこもかしこも赤色で染め上げられていた旧共産主義地域では、実際には何一つ忘れ去られていたわけでもなく、何一つ許されていたわけでもなく、実に様々な色から成り立っていた。」

チェコ・スロヴァキア連邦共和国  
初代大統領V・ハヴェル

本会議の議題は「全欧安全保障協力会議(CSCE)ヘルシンキ・フォローアップ会議」における「CSCE少数民族高等弁務官」の設置です。

会議が開催された1992年のヨーロッパ世界は、まさに過去最大の変化を目の当たりにしていました。冷戦の終結と東側ブロックの崩壊、東欧の民主化、東西ドイツ統一によって欧州に自由と希望がもたらされた一方で、「民族」を起点とする紛争や緊張の高まりも同時に発生していました。ユーゴ連邦の解体とそれに伴う凄惨な内戦は欧州史上最大規模の難民の流入を招いた一方、ソ連邦は民族主義の高揚を抑えきれずに解体、旧ソ連圏は政治的・経済的混乱状態にありました。

そのような情勢も考慮した「少数民族に対する保護の不足が少数民族の迫害を招いているのではないか」という懸念の下で、欧州各国は「民族的少数派(ナショナル・マイノリティ)」の人権保護を推進してい

きました。このプロセスはCSCE(全欧安全保障協力会議)を中心に推進され、1990年に「コペンハーゲン文書」として成文化されました。

しかしながら、その後「民族的少数派」の人権保護の試みは、情勢の激化に伴う各国の対立の激化によって停滞するようになりました。1991年には二度にわたって少数民族の権利に関する成果文書の作成が試みられましたがどちらも決裂に終わり、その一方でユーゴ紛争の激化、ソ連邦の崩壊と情勢は着々と深刻化していました。

そのような情勢の下でオランダ大使から提案されたのが今回議論する「少数民族高等弁務官」です。これは少数民族の権利という概念と紛争予防という安全保障上の概念をミックスさせたもので、雑に言うならば、少数民族の観点から紛争予防を行おう、という新たな観点からの画期的な提案でした。結果的にこの提案はCSCE史上最高の合意と後にいわれるまでのものでした。

しかし、この提案を実現させるには会議における各国の意見調整を経て“コンセンサス”で成果文書を採択する必要があります。過去二度にわたって決裂してきた少数民族をめぐるCSCE内の対立をまとめ上げなければならぬのです。史実においてもこの提案

は米英仏を始めとする強力な反対国の抵抗に遭い、会議期間のギリギリまで交渉と説得が続きました。果たして今回の会議において、どのような高等弁務官の設置が設置されるのでしょうか、それとも三度決裂してしまうのでしょうか、すべてはあなたの手にかかっています。

## ○コンセプトについて 「再構築」

我々の掲げるコンセプトは「再構築」です。このコンセプトにおける再構築の意味とは、皆さんが模擬国連をやる上であたりまえに思っている部分、つまり、国益や交渉、モデなどの模擬国連の基本的な要素を再考してみよう、というものです。例えば国益であれば、成果文書以外の国益には何かがあるか、交渉過程・交渉方法は国益とどう関係があるか、などと多くの疑問があるでしょう。

我々の会議では、これらの基本的な要素に対する疑問を会議準備と会議行動を通じて考え、そして参加者の皆さんがその疑問に対する自分なりの答えを見つけてほしいと考えています。そして、その自分なりの答えというものが皆さんの模擬国連における個性や価値観を構成していくのだと思います。我々の会議が目指しているものとは、そのような、再構築のプロセスを通じた個性・価値観の確立です。もう自分なりの価値観があるという方は自分の価値観を見直してみる機会に、そしてまだ自分なりの価値観などないという方は自分の価値観を創り上げるきっかけにさせていただきたいです。

今回の会議ではこの全体コンセプトである「再構築」に加えて、二つの下部コンセプトを用意しています。この下部コンセプトの意義とは、全体コンセプトである「再構築」があまりにも抽象的すぎるために、実際の会議や運営がどのようにコンセプトを反映しているかを表したものとなっています。

## 会議コンセプト「Trust, but Verify」

一つ目の下部コンセプトは会議コンセプトの「Trust, but Verify」となっています。意味としては、交渉相手を信頼するが、しかし、相手も人間であり国家の代表者である以上、相手の発言や提示した条件などはしっかりと確認しなければならない、といった感じでしょうか。

会議においては、このような信頼と疑いのバランスというものが一つの大きな要素になっていると思います。参加者の皆さんにはこのバランスをどう考えるか、それを基本的な要素の再構築の下に考えてほしいと考えています。

## 広報・運営コンセプト「Disclosure」

二つ目の下部コンセプトは広報・運営コンセプトの「Disclosure」です。このコンセプトは広報や会議運営におけるフロントからデリに対する関わり方を表したもので、「Disclosure」とは一般に情報公開という意味です。

つまり、皆さんが実際に我々の会議の下で「再構築」を行う上で、フロントの我々が何を考えてコンセプトを設定したのか、会議を設計したのか、それらの意図が伝わるような積極的な情報公開をしていきます。そして我々がどう会議を再構築したのかを伝えていきます。

全体コンセプトに『再構築』というものを掲げた以上、我々がどのように再構築をしたのか、ということ全員に知ってもらう必要があるということ、そして模擬国連の枠組みを基礎から見直すという難題に対し、フロントが少しでも多くの示唆を与えることができれば、と考えています。

## ○会議の特徴

### ①情勢と深く関連した規範形成

・本会議はヨーロッパ世界の劇的な変動と緊張の激化という情勢に連動する形で現れ

た少数民族高等弁務官という職の設置を議論します。そのため、議論内容自体は高等弁務官という職についての議論や対立する概念についての議論がメインとなりつつも、その背景や議論の端々には常に自国や欧州が抱える民族問題が念頭に置かれるでしょう。そのような意味で情勢系会議にありがちな緊迫感と概念系会議にありがちな丁寧な合意形成という両方の側面を持った会議になっていると考えています。

- ・また、CSCEという地域機構を舞台とした会議であるため、より欧州地域の实情に迫る、いつもの模擬国連とは異なる舞台での会議となります。さらに、1992年という時代もこれまでの模擬国連会議ではあまり扱われてこなかった時代であり、欧州の政治的バランスが激動した時期にあって各国がどのように欧州を「再構築」してゆくのが問われます。

- ・加えて、情勢の緊迫感という要素を増すために、会議の進行に合わせて当時の情勢に関するプレスなどを出そうと考えています。情勢の変化によって各国の態度に変化が現れる可能性もあるかもしれません。

## ②準備へのサポート

- ・コンセプト紹介において述べたように、再構築のプロセスは会議準備と会議当日の

両方で行われます。このプロセスを速やかなものにするためにフロントの考えが伝わり、デリが自分なりの答えを出すことができるような情報の公開を目指していきます。

- ・具体的には、メンターにおいては国益や戦略の設定において様々な疑問を提示したり、フロントから何かしらの答えを提示するのではなく、考えを深めるための疑問や課題を提示することを目指しています。

- ・また、会議関連資料については、ネット上の検索でなかなか発見しにくいこともあり、可能な限りフロントから提供を行おうと考えています。

- ・BGの構成については可能な限り会議に必要な知識や概念、情勢について網羅的に見ることができ、また会議における議論が見えるような物になるでしょう。

## ○会議監督より一言

皆さんこんにちは！会議監督を務めます駒場研究会の西鴻一と申します。

我々のコンセプトである「再構築」を実現するためには、模擬に対する様々な考え方を持つ人々の参加が不可欠です！コンセプトがいいなと思った人も、議題がいいなと思った人も、どのような人でも是非我々の会議への参加を検討してみてください！



## フロント

会議監督	袁清于   上智大学総合グローバル学部   四ツ谷研究会老メン
副会議監督	青柳友香   早稲田大学政治経済学部   早稲田研究会老メン
議長	小嶺響平   上智大学総合グローバル学部   四ツ谷研究会老メン
秘書官	清水大輝   上智大学法学部   四ツ谷研究会老メン
秘書官	田形萌々花   同志社大学文学部   京都研究会老メン

## 公式SNS

X : [@KMUNC25\\_ESS9](#) • Instagram : [@kmunc25\\_ess9](#)

事前会合	あり (本会合4～8日前でデリの裁量によって調整)
事前交渉	あり

## 会議紹介

### ○議題について

本議題の念頭に置かれる情勢は「イスラエル議会においてなされたゴラン高原への管轄権行使」となる。まずイスラエルは、パレスチナ分割決議から逸脱する領土の獲得、つまりガザ地区・ヨルダン川西岸地区のほかに、6日間戦争をはじめとした中東諸国との戦争において軍事的に領土を獲得してきた。それは主にシナイ半島、そしてゴラン高原となります。シナイ半島については1978年のキャンプデービッド合意によってエジプトがイスラエルとの2国間交渉に応じる形で返還が決定されたが、それに相対してシリアはヨムキプール戦争以降イスラエルとの交渉に一切応じようとしなかった。以上のような状況においてイスラエルが対アラブのためにさらに強い措置、つまりゴラン高原への管轄権行使を実行に移したと考えられる。

国際社会はこの緊急事態の中で国連は安保理においてイスラエルの管轄権行使の撤回を求める決議497を採択した。しかしイスラエルが安保理の言うことを聞かなかったため、より強い制裁措置を伴った決議を決議しようとしたがアメリカの拒否権行使により採択されなかった。その代わり、この事態を打開するため、平和のための結集決議に基づいて総会において緊急特別会期を開くことを安保理決議500の採択によって決定した。

史実においてこの会議はほとんど有意義なものとはならなかった。この際の決議を見

てみると、主文において脅威認定こそあるものの、イスラエルを非平和愛好国であると非難し、比較的烈度の高いものの実行性のない制裁文言が記されていた。またフランスが分割投票を要求したにもかかわらずそれがなされることはなかった。これが意味するのは、決議における総会という場におけるアラブ側による一方的なイスラエルの非難と制裁、であり事態を解決するにはいささか急進的だったという評価であろう。その結果を示すかのように、この後イスラエルは管轄権行使を撤廃するどころか、およそ4か月後にレバノンに侵攻し中東情勢をさらなる混乱に陥れた。ここから、イスラエルはヒートアップしすぎた国際社会を機能不全とみなし自身を正当化させたといえるかもしれない。また緊急特別総会の持つ「勧告」による措置も結局なされず、会期の延長もなされなかった。そういう文脈において今会議はイスラエルの行動に大きく制限をかけるものにならなかっただろう。

デリ諸君におかれては、以上のことを意識して会議に臨みたい。

### ○コンセプトについて

#### 「PIE (Pursue It Eagerly)」

まず、このコンセプトは主に以下を土台にして提起されたものである。

模擬国連へのモチベーション（感情）

↓  
模擬国連に投影されるその実行（追求行為）

↓  
成果物としてのPIE

まず、我々が模擬国連をやり続けている理由とは何か。それは「楽しいから」「面白いから」といった感情からくる者に他ならない。たとえ会議が残念な結果に終わっても、悔しく感じたとしても、模擬国連を続けられる人は個々が真剣に模擬に取り組んだあとの高揚感や楽しさは残るだろうし、私はそれが模擬を続けるモチベーションとなると考える。

では、それらの感情はどのようなプロセスで昇華されていくのだろうか。ここでの私の見解としては「追求」行為であると考え。模擬国連とはある種追求行為の延長線上にある。例えば国益の追求は、自分が行った議題・自国・他国理解に沿って徹底的に国益を考え、その国益という軸に従って徹底させて会議行動に投影し成果をひっさげられるかと言える。これはリサーチから会議終了までのすべてのデリの行動に含まれる行為だと考える。そしてそれがデリとしての深みを醸成する主要素ともなる。しかし別にここで「追求」の方向性を選定しようと思わない。そもそも追求においても様々な思想があり、それらの追求が完了することはない。そこは人それぞれの得意不得意や好みに合致した追求があるべきだ。

そしてその追求行為というプロセスの先にある成果物として私はパイを選んだ。ここでいうパイとは無論デリ各人の追求行為によっては変わりうる。例えば合意形成を追求したい人はそれをリサーチから会議終了までにいかに徹底して自分のやりたい合意形成を実現できるかがその人の追求の成果になるだろうし、模擬国連においては決議をはじめとした発言や文書としてそれらが残される。そしてこのパイをいかに最大化できるかが模擬国連におけるゲームの結果になるものであろう

### ○会議の特徴

私の会議の特徴は以下の3つとなる。

1, 「議題」：情勢会議特有の本質的な議論と激しい対立

この会議において当事者はシリアとイスラエルの2カ国である。この問題は基本的にこの2国家間の問題であり、領土をめぐる争

う。イスラエルは自身の管轄権行使を正当化し、シリアは自身の領土を回復しようと躍起になるだろう。お互いの合意可能領域は絶望的なまでに狭いものとなる。しかし、そのような情勢下だからこそ、みんな国家主権にまつわる本質的な議論を激しくかわすことができ、また各々が目指すパイが各々で対立・邂逅する。そのような議論が皆さんの追求の盤上をさらに豊かなものにさせるだろう。

2, 「議場」：総会緊急特別会期という議場

そもそも今会議は総会で行われる。しかし一般の総会とは異なる。今回は安保理において、安保理が常任理事国の拒否権行使によって機能不全に陥り、平和のための結集決議でもって委託された総会緊急特別会期、となる。この総会において総会は軍事措置をも含む措置を「勧告」できる権限を持つとされている。安保理において付託される決定の権限よりは法的側面においては弱いが、対象国に重大な打撃を与えられるだろう。また、その緊急性にも着目できる。緊急特別会期はその決議採択から24時間以内に招集可能だ。これは今回の情勢が緊急のものであることを示し、それだけでもこの場における決定は国際社会に重要視される。総会とは少し異なる責任感や緊張感がデリには付きまとう。以上の認識は取れる選択肢や戦略の幅を増やしデリの追求にとっても利益となるだろう。

3, 「会議設計」：自由に追求することのできる場を設ける会議設計

私の会議設計は、会議そのものが崩壊する危険性がある事柄以外、基本的にデリが実現したいことを縛るようなことはない。本会議は、特に国益が明確に対立する情勢会議ということもあり、論点TT案を採択する議論議論を事前会合にて開催する。これはデリ各人の模擬における追求を徹底してやってもらう場合論点TT案をデリの手で採択する必要があるからだ。さらにリサーチを行うタスクも議題、争点理解・自国理解・他国理解・国益策定・戦略策定などに分類し、その配列やレイアウトをデリ自身にやってもらう。

\*注意：本会議では論点TT案策定のために事前会合があります。日程は会議当日の8～4日前を予定していますが、その範囲内においてデリから希望をとって行う予定です。

### ○会議監督より一言

関西大会に出ようと考えてこのガイドブックまで読んでいる素晴らしくやる気のある皆様にひとつだけ言いたいことがあります。皆様にとって模擬とは何でしょうか？

私にとってはある種のスポーツであると思っています。

皆が熱心夢中になり、競技し、物語が生まれる。これをスポーツと言わずしてなんでしょう。

私は特に烈度の高い手に汗握るようなスポーツが好きです。それが情勢会議やクライシスであると思います。本会議はそのようになるでしょう。皆様のお越しをぜひお待ちしております。



## フロント

会議監督	河内百々   早稲田大学文化構想学部   早稲田研究会老メン
副会議監督	加悦成晃   早稲田大学基幹理工学部   早稲田研究会老メン
議長	岡部泰大   横浜国立大学経済学部   日吉研究会老メン
秘書官	橘川美緒   早稲田大学政治経済学部   早稲田研究会老メン
秘書官	鈴木帆乃佳   慶應義塾大学商学部   日吉研究会老メン
秘書官	田端開   慶應義塾大学法学部   日吉研究会老メン
秘書官	油井虎之介   東京大学法学部   駒場研究会老メン

## 公式SNS

X : [@kmunc25\\_vienna](#) ・ Instagram : [@kmunc25\\_vienna](#)

## 事前交渉

2025年8月23日(土) 10:00～8月24日(日) 22:00@Discord

## 事前会合

なし

## 会議紹介

### ○議題について

ウィーン宣言及び行動計画は、1993年6月にオーストリア・ウィーンで開催された世界人権会議において、コンセンサスにより採択されました。

第二次世界大戦がもたらした未曾有の惨禍への深い反省から、1948年に国連で「世界人権宣言」が採択されました。これを契機に、国際人権規約、拷問等禁止条約、女性差別撤廃条約、難民条約など、さまざまな人権条約が制定され、国際的に人権保障の機運が高まりました。

世界人権会議が開催された1993年は「世界人権宣言」採択から45周年にあたり、また国連が定めた「世界の先住民の国際年」にも当たる節目の年でした。しかし、冷戦構造の崩壊に伴い東西対立が解消される一方、ボスニア・ヘルツェゴビナをはじめとする各地で紛争が激化し、南北間の経済格差も拡大していました。このような混沌とした状況の中で、これまでの国際人権分野における進展を振り返り、国際人権保障システムのさらなる強化を検討・提言することを目的に、世界人権会議が開催されました。

混沌とした当時の世界情勢を反映するかのよう、世界人権会議では南北間の人権観の違いや様々な文化の違いが浮き彫りとなり、議論は平行線をたどり、その

結果、会議は最終日まで難航し、「会議は踊る、されど進まず」といった状況に陥りました。しかし、こうした対立の中でも双方の妥協が図られ、最終的にコンセンサスによる採択に至ったのが、ウィーン宣言及び行動計画でした。

### ○コンセプトについて

#### 「Stairs」

模擬国連はいわゆる「論破ゲーム」ではありません。ただ単に論破することは国益達成に繋がらないことは自明でしょう。しかし模擬国連は単なる妥協、国益を軽視した「合意形成ゲーム」でもありません。合意は目的ではなく国益達成のための手段であるべきだと考えております。当会議で目指すのは自国益、そして合意形成を両立させたもの一単なる論破でも、単なる妥協でもなく、それらを超越した高次のものを追求するためのStairs<<階段>>—

そしてその「Stairs」を上るためにはどのような手段を取ればよいのか...私たちは「公式討議→モデ/インフォーマル→アンモデ/コーカス→合意形成」という模擬国連のベースとなる型を改めて提示することで、それらを国益達成のための「手段」として

捉えてもらい、各デリがこの「手段」をどう使うかを突き詰めて考える場所を築くべく、当会議を作っています。

当会議では、人権の普遍性を主張する国と、人権の相対性を掲げる国との対立、さらには国連人権高等弁務官の形態をめぐる各国の意見の相違など、複雑な対立構造が存在しています。このような混沌とした状況を打開するために必要なのは、単なる論破や単なる妥協ではありません。むしろ、それらを超越し、より高次の次元を追求するための「Stairs」を築くことこそが、求められているのではないのでしょうか。

## ○会議の特徴

### ・対立構造が分かりやすい

ウィーン人権宣言及び行動計画は発展途上国vs先進国という南北対立がベースである点で対立構造が明確であり、事前に数多くの地域会合のもとに会議が行われているために多数のグルーピングがわかりやすく存在しています。そのため担当国のスタンス設定に時間がかからないため、会議戦略を十分に練れる時間を確保することができます。

### ・コンセンサス

合意形成を常に意識しなくてはコンセンサス採択できない状況の中でモデ/インフォーマル、アンモデ/コーカスという「手段」を使ってどのように自国益を確保するか、当会議はコンセンサス採択であるため、自国益と合意形成の両立を意識することが可能です。

### ・自由度の高い会議設計

当会議では公式討議、モデ/インフォーマル、アンモデ/コーカスという手段の他にプレスを設けています。世界人権会議では約1500のNGO団体が会議に参加し、NGOの行動やプレスは会議の趨勢に影響を与え、ウィーン人権宣言及び行動計画の採択に大きく貢献しました。しかし、模擬国連では上記のようなNGOによる外圧や議場の外側、すなわち国際情勢の動きを議場内に反

映させることが難しいという課題があります。そこで当会議では、プレスを通じて「大使である自分自身の行動が議場外の国際情勢に影響を与える」という実感を持っていただくことを目指しています。さらに、プレスという「手段」をどのように活用すれば、自国の利益の達成と合意形成のバランスを取れるのかについて、戦略的に思考を巡らせてほしいと考えています。

### ・手厚いフロントサポート

当会議ではフロントサポートを通して自国益と合意形成の両立に向けて「手段」をどのように使うべきかお伝えしていきます。具体的には、タスクにおいてモデ・アンモデをどう活用するか・どう接続するかを常に立ち返るような設問を設けたり、メンターや勉強会を通じて、モデ・アンモデをどのように使って国益達成するか、会議戦略のいろはを提供する予定です。さらに、初回メンターやタスクを通じて、過去および現在の模擬国連との関わり方を言語化し、勉強会では全員で模擬国連について振り返る機会を設けます。自らの模擬国連観を相対化し、模擬国連との向き合い方の軸を築くことで、模擬国連を続ける上での道標のような会議を目指しております。

会議の特徴については広報を通じて詳しくお伝えしていきます。各種SNS(Instagram、X)をご参照ください。

## ○会議監督より一言

皆さんこんにちは。当会議で会議監督を務めます、早稲田研究会の河内百々と申します。当会議では自国益の達成と合意形成を両立させるために公式討議、モデ/インフォーマル、アンモデ/コーカスという「手段」をどのように使うかを突き詰めて考え、実践する場の提供を目指しております。コンセプトでもフロントメンバーでも議題でも当会議にビビッと来たら、是非アプライ前メンターでの個別相談や当会議へのアプライをしてみてください。フロント一同、あなたの参加をお待ちしております。

# COP27（気候変動枠組み条約第27回締約国会議）

## ほころびをつむぐ



### フロント

#### 会議監督

杉本幹太 | 大阪大学基礎工学部 | 神戸研究会老メン

#### 議長

熊谷こはる | 早稲田大学文化構想学部 | 早稲田研究会老メン

#### 報道官

斎藤由貴 | 同志社大学法学部 | 京都研究会老メン

#### 報道官

大岡陽哉 | 東京大学教養学部 | 駒場研究会老メン

#### 報道官

高原未凧 | 国際基督教大学教養学部 | 早稲田研究会老メン

### 公式SNS

X：[@kmunc25\\_cop27](#)・Instagram：[@kmunc25\\_cop27](#)

### 事前交渉

あり

### 事前会合

あり

※今後、変動する可能性あり

## 会議紹介

### 〇議題について

1992年、リオデジャネイロで開催された国連環境開発会議において、「気候変動枠組み条約(=UNFCCC)」が採択されました。そして、この条約に締約した国々だけが参加できる締約国会議が、いわゆる「COP」です。2000年代、アメリカのジョージ・ブッシュ大統領が「地球温暖化など単なる学問上の仮説で、温暖化現象は現実に確認できていない」と述べるなど、地球温暖化を否定する意見も多く存在していました。しかし、2006年、同じくアメリカのアルゴア副大統領が監督をした「不都合な事実」というドキュメンタリー映画によって、地球温暖化に対する意識が大きく変わりました。時代は進み、地球温暖化を否定する学説は減少傾向にあり、世界共通の問題として認識され始めています。その地球温暖化をより抜本的に解決するためにできた協定が、UNFCCCの議定書であるパリ協定です。そして、大まかにパリ協定をどのように実施するのかを話し合うのが、本会議である「COP27」です。「COP27」は、広く知られている先進国vs発展途上国という対立だけではなく、先進国同士の対立、ならびに発展途上国同士の対立が複雑に交錯する、とりわけカオスな世界になっています。

### 〇コンセプトについて

#### 「ほころびをつむぐ」

### ①参加者個人としての意味

模擬国連をしている時に生まれるもやもや感は何であるのかについて、徹底的に考えていただきたいです。模擬国連をして生まれる悩みの中には、ある種、先輩方からの受け売りのようなものがあるのではないのでしょうか。今会議では、私たちフロントは、そのような先輩方から受け継いだ思考のフレームを自分なりに根本から再考してみようというアプローチ方法によって、参加者の皆さんがそのようなほころびをつむぐお手伝いを行っていきます。また、模擬国連におけるもやもや感(=ほころび)が生まれる原因についても徹底的に分析し、その原因を改善する(=つむぐ)ことも行っていただきたいです。

### ②史実を超越し得る会議としての意味

全ての戦争や紛争は小さなほころびからスタートします。例えば、第二次世界大戦は保護貿易により経済安全保障にほころびが出てしまい、そのほころびがつむがれずに拡大することによって起こりました。私たちは、ある種の国家の安全保障の根幹にかかわる問題のほころびが具現化し始めている会議にすることで、史実ではできなかったようなつむぎ方を演出することができるの

ではないでしょうか。さらに、そのつむぎ方によっては、再度新たなほころびを生み出す可能性がある議題にしているため、中・長期的な国益を必ず考えないといけません。

### ③史実から逆算する会議としての意味

模擬国連の面白いところの1つは、私たちがタイムスリップをして会議に参加できることです。つまり、史実会議の失敗や成功もすべて客観的に俯瞰することができます。この史実の失敗(=ほころび)をどのようにつむいでいけるかを楽しんでいただきたいと思います。

### ④会議行動としての意味

私たちの目指す「有意義ではない文言対立をなくすこと」と「すべての参加者との対話が必要であること」に由来します。対立陣営との交渉においても、意見対立など(=ほころび)を対話や文言変更など(=つむぐ)によって解決することができます。ここに、「つむぐ」という言葉に込められた思いがあります。つむぐという概念は、模擬国連の最近のブームである「対話重視」を踏襲し、さらに発展させたものです。糸をつむぐときをイメージするとわかりやすいと思います。対立というほころびを針(=戦略)によってつむいで(=対話)ほしいと考えています。

### ⑤会議準備としての意味

国益の「なぜ？」を徹底的に考えていただきたいです。従来の会議では、この「なぜ？」を考えずに戦略などに走ることによって、一大学生が国家を体現しようとする際に生じる揺らぎ(=ほころび)が生まれていたと考えているため、メンター、BG、勉強会を通してそのほころびをつむいでいただきたいと考えています。

## ○会議の特徴

### ①史実を超越する可能性があること

史実を超越できる可能性を秘めており、会議終盤までその可能性が担保されていることです。そして、史実を超越する可能性がある会議とはどのような会議かという、失

敗した側がいて、その失敗した側の原因が明確で改善する余地がある場合です。史実では、COP27の敗者は、EU(欧州連合)でした。EUが失敗した原因は明確にあり、私たちフロントはその失敗は覆せると考えています。そのため、すべての参加者が史実を超越または下回る可能性を感じながら会議に参加するため、史実を超越する可能性があるときにアドレナリンが放出される仕組みになっています。

### ②自国の決断が自国の今後を決めてしまうというドキドキ感

安全保障会議の議題は、そもそも自国の判断が自国の今後を決めてしまうというドキドキ感の担保ができます。一方で、通常、COP会議と聞くと、「ああ～意識高い系」の会議ねと感じるかもしれません。しかし、COP会議は「武器なき環境闘争」と言われるほど安全保障に関係があります。環境安全保障は、エネルギー安全保障と密接に関わっていますし、エネルギー安全保障は、例えばOPEC(石油輸出国機構)においては、石油が大事であるため自国の産業を左右します。また、発展途上国においては、発展させていくためにエネルギーを使います。このエネルギーを安く安定供給するためには、温室効果ガスを排出しなければならず、過度な環境政策によって、自国の発展を阻害してしまいます。

### ③会議に参加する共通の前提認識があること

問題認識がそもそも違う場合は、面白い会議になり得ないと考えています。例えば、情勢会議においてそもそも紛争に関する事実認識が異なるため、インフォーマルでの議論において「何やっているんだろうか？」感がどうしても生まれてしまう場合があるのではないのでしょうか。では、我々の会議ではどのようにそれを克服するかというと、デリ間での「前提認識」がある程度そろっている状態にします。要するに、地球温暖化が実際に存在し解決しなければならない、という問題の所在は全力国が理解しているという状態です。その上で、各国が

望む問題解決アプローチが異なっていると  
いう状態にします。これにより、いわゆる議  
場から完璧にはぶられてコーカス中に何も  
やることがない大使を極限まで減らします。

#### ④議場と議場外の世界のつながりを感じられる

私たちの会議では、報道官というシステム  
を導入します。一般的に報道官はクライシス  
会議だけだと思いがちですが、実際の国際  
社会では報道官が国際会議に大きな影響を  
及ぼします。例えば、COP15は報道官に  
よって会議が崩壊しました。どうしても会  
議中は議場の中のことしか考えなくなり、  
議場の外のことを考えられなくなってしま  
います。しかし、報道官を入れることで、会  
議の中とその会議を受けた世界をフロント  
が提供することで、外のことも考えて、  
(ああ実際に自分の行動が世界を動かして  
るんだなあ) 感を得ることができます。

#### ⑤全体像を理解してリサーチをすることができる

COP27は、「全体像」を把握することが簡  
単です。全体像を把握する専用のBGを作成

し、新メンでも即座に理解できる仕組み作  
りを行っています。また、BG解説動画を作  
ることで全体像を素早く正確に理解しても  
らいます。そのため、リサーチにおける羅針  
盤を作った状態でリサーチができるため、  
リサーチ中に起こる（自分今何やっている  
のだろう）感の減少並びに目的意識を持っ  
たリサーチができます。

#### ○会議監督より一言

関西大会に、そして7つの議場の中から当  
会議に興味を持って下さり、ありがとうござ  
います！コンセプトや会議設計をかなり  
細々と解説してしまいましたが、基本的  
には議題も含めオーソドックスな議場とな  
っています。そのため、模擬国連の経験が浅い  
方から豊富な方まで、どのような参加者の  
方々でも、全力で取り組み、たくさん楽し  
んでいただけるかと思えます。フロント一  
同、全ての参加者にとって、素敵な思い出  
として残るような会議になるよう、精一杯  
がんばって参ります！夏に神戸で皆様にお  
会い出来ることを、心から楽しみにしてい  
ます！

# サイバーセキュリティに関する政府専門家会合 向こう岸で見る夢



## フロント

会議監督	菊池直樹   大阪大学法学部   神戸研究会老メン
議長	中村ありさ   早稲田大学先進理工学部   早稲田研究会老メン
秘書官	漆戸梓   同志社大学文化情報学部   京都研究会老メン
秘書官	大旗大介   横浜国立大学都市科学部   日吉研究会老メン
秘書官	猪熊澗蘭   立命館アジア太平洋大学サステナビリティ観光学部   九州支部老メン
秘書官	山根佑生   大阪大学法学部   神戸研究会老メン

## 会議公式SNS

X : [@KMUNC25\\_honeycm](#) ・ Instagram : [@kmunc25\\_honeycomb](#)

## 事前会合

あり (会議5日～3日前の予定) ・ オンライン開催

## 会議紹介

### 〇議題について

サイバーセキュリティに関する政府専門家会合(通称:GGE)は、サイバー空間に関する議論を行なっている場です。2000年代にかけて陸・海・空・宇宙に続いて第5の戦場とも言われるようになってきた新秩序であるサイバー空間においては情報の発展に伴って、規範の形成の必要性が叫ばれていましたが、サイバー空間の持つ特殊性が故に中々成果物が得られないでいました。

そんな中これまでサイバー空間形成を推し進めてきた中露に対して、ロンドン会議を経て西側諸国が参加意欲を強く示したことや、オバマ大統領就任を経たアメリカがサイバー空間に対してイニシアティブを握ろうとし始めたことから、両極は真っ向から対立することになりました。一見すると会議は破綻に向かうように思えますが、サイバー空間という未知な空間の取り扱いに関する成果物を出さなければいけないという緊迫感及び合意の可能性も互いに感じていた稀有なタイミングでした。また途上国は急激な技術発展を経て自国の状況も加味したサイバー空間利用を求めるようになり、参加国の全てが何かしらの強い合意インセンティブを持っていた会議が本会合であり、国際法適用の可能性などを明記し、秩序形成にあたって大きな一歩を踏み出した会議です。

後にも先にもこの会議ほど各国の合意インセンティブが高く、成果が出た会議はありません。

### 〇コンセプトについて 「向こう岸で見る夢」

最近の模擬国連においては、沢山の問題意識とそれに対するアプローチが見られますよね。

この試みは非常に社会的な意義をもつ一方で、デリからすると少し堅苦しく、模擬国連が大層なものに感じるかもしれません。

そこで僕らは、問題意識を一つと定めそれを行動レベルで規律するのではなく、多様な模擬国連を共存させ合い、そして位相を拡大した形を目指しています。

以下コンセプトの分かりやすい実態としてある**"共存"**と**"拡大"**についてご説明します。

まず**"共存"**について、今日分極化が進み多様な模擬国連が存在しますが、変化してきている模擬国連において何か1つの価値が蔑ろにされてしまうことにはもったいなさを感じます。せっかく模擬国連が良い方向に変容してきているのならば、その波に乗じつつ、その上個々の価値観を否定しないよう

に共存を図りたいと思いました。どれかを排斥せずに余すことなく味わえることができて、会議終了後は自己の価値観の変容またはそれへの抗いを体験してみたいというものがコンセプトの1つの要素です。

またこの1つ目の要素を掲げた背景には、昨今の模擬国連の細分化によってジャンルの分類分けが詳細になり、それが進めば進むほどまるでそっくりの結果を作り出す道具のように各会議が予測可能性と平凡さを帯びてきてしまいます。このような現状は、会議に潜む未知性と創作的な意義を失わせているように感じました。そこである種の実験と逸脱と反証のようなものをしてみることができるよう共存を掲げています。

また2つ目の要素として、模擬国連とは本来大学生の身分にしては凄くて大層な素敵なおことをしていると思うんです。国際法とか国際情勢とかのような普通に過ごしていれば分からなかったであろうことがわかるようになる、とかそういうレベルで楽しさを感じられたり、それを認められたりすると模擬国連を好きになってもらいやすいのかなと思いました。

模擬国連に初めに感じるような、些細な"楽しい"という思いを大切にしたい、そういう意味で拡大を行おうと思っています。

こういった二つの思いから、現状の模擬国連がこちらの岸だとすると、向こう岸、つまりはいまだ体験できていないような向こう側において、共存と拡大が図られた、棲み分けではない模擬国連という"夢"をデリの皆さんとともに見たいという思いを抱きコンセプトとさせていただきます。

## ○会議の特徴

### ・共存の場の提供

勉強会においてはデリ間で、それぞれの思う模擬国連のおもしろさであったりを互いに共有し合い、なにか1個でもいいから実際に自分があまり考えたことのなかったことを、体験してもらいたいと思っています。

例えばですが、普段は公式スピーチなどに力を入れない人も、国家の体現というのを知り、そして実際に徹底してスピーチなどでも体現しようとしてみる、のような事です。

### ・対話のしやすい議題設定

共存の中で想定される価値観として、"対話"がありますが、これがゲーム性によって排斥されることがないように、議論議論は行わず、フロントが提示する論点に従ってインフォーマルを行います。

また議題自体の性質としても、根本の対立こそ民主主義と権威主義や自由市場と保護主義のような分かりあうのが難しい対立になっていますが、議場で発される議論としては、噛み合う側面が多く存在しています。特に規制に関しては規制の必要性は全ての国が認めているため、互いの懸念をいかにして晴らすかに焦点を当てることができます。

また事前会合においてロビイング時間を設け、各国のインフォーマルの調整などを行い、議論の円滑化を行う予定です。

なお、コーカスへの移行にあたっては、インフォーマルで生まれた交渉ポイントなどをしっかりと精査する時間を設けたのちにコーカスへと移行します。

### ・メンターの充実

メンターはディレク・議長/セクの2分制で行います。会議においてデリの皆さんには自立してもらい主体的な享受を行って欲しいので長い時間にわたる並走型のメンターの方がデリとフロント間の交流ができ、かつデリの皆さんの考えなどを深めることができるとしています。

### ・半勉強会半哲学カフェの対面実施

勉強会よりはもう少し身内意識が強いイメージを持ってもらえれば良いです。それこ

そ友人達と普段のリサーチで、諸概念の確かめ合いをするように、本来ならば高度な概念を、デリ間で互いに平易に語り合う機会をフロントから設けます。

また半哲学カフェでは、国家を脱ぎ捨てて、ビッグクエスチョンに対してそれぞれの意見の交流（対話）をしてもらいます。アカデミックさに必ずしも寄せるつもりはなく、議題の性質も相まって非常に日常に近しいかつ対話をするこゝでの気づきや学

びが多そうなクエスチョンに対して雑談のように話してもらいます。

#### ○会議監督より一言

みなさんこんにちは、会議監督の菊池直樹です！。

この会議に込めた思い、伝えたいことは全てHPや広報でお伝えするので、少しでも興味を持ってくださった方はインスタ、Twitter、HPに飛んでみてください！

お待ちしております！



## フロント

会議監督	久保裕貴   龍谷大学社会学部   京都研究会老メン
副会議監督	向菜友子   京都大学総合人間学部   京都研究会老メン
議場A議長	迎ななみ   上智大学文学部   四ツ谷研究会老メン
議場B議長	中川涼介   関西大学文学部   神戸研究会老メン
議場A秘書官	小橋口航   同志社大学法学部政治学科   京都研究会老メン
議場A秘書官	藤田圭吾   関西学院大学国際学部   神戸研究会老メン
議場B秘書官	大森祐花   同志社大学法学部政治学科   京都研究会老メン

## 会議公式SNS

X : [@KMUNC25\\_Bosnia](#) ・ Instagram : [@kmunc25\\_bosnia](#)

## 事前交渉

未定（開催の場合、DiscordやZoomを用いたOnline形式を想定）

## 事前会合

なし

## 会議紹介

### ○議題について

7,000人以上の死亡、3万人以上の行方不明者、そして1000万人以上の難民の発生。上記の数字は、1992年6月20日時点で既に犠牲になっている人間の数です。ボスニア紛争は、旧ユーゴが崩壊していく中で起こった旧ユーゴ内戦のひとつであり、20世紀で最も悲惨な紛争の一つでした。

史実では今会議において安全保障理事会はボスニア紛争を終結させるために武力の容認を限定的ではあるがPKO、そしてNATOにも認めました。そして安全地域政策を中心としてボスニア国内の市民を保護する役割を果たそうと尽力しました。しかし同時に決議上における「曖昧さ」を内包したこの国連の対応によってその後の人道的介入に関する議論に大きな疑問符を残しました。

今会議は情勢系でありながら、その後の「人道的介入」「保護する責任（R2P）」の規範形成に大きな影響を与える会議です。直面している情勢を評価しながらも、その後の規範形成に向けて大使としてどのような行動がとれるのでしょうか？

### ○コンセプトについて

#### 「Root」

コンセプトである「Root」には二つの意味が込められています。

一つ目は「根」です。

関西大会は全国大会の中で最も大使間で経験に差がある大会だと考えています。いろいろな会議経験を積みたいという大使もいれば、自分なりに結果を出したいという大使もいると思います。デリによって経験や能力、目標の違いはあれどもこの会議で今後の模擬国連生活を支える強固な「根」を張ってもらいたいという思いを込めてこのコンセプトを考えました。種から芽を出す。根を張り葉を茂らす。花を咲かせ実を結ぶ。各デリにとっての模擬国連の面白さを深め、それぞれにとっての「花」を咲かせるための根づくりをできる会議にしていきたいです。

二つ目は「√」です。

模擬国連ではそれぞれの国の国益を理解し、その実現のために他国と交渉する必要があります。その中で、各国の国益を対立軸の中に落とし込み理解することは、自国理解においても、他国との交渉においても、戦略やロジックの組み立てにおいても不可欠です。しかし、こうした対立軸の描き方は

無数に存在しえます。本議題においても旧ユーゴという複雑な民族問題をはらんだ地域における情勢の中で、今後の国際社会にも大きく影響を与える人道的介入論や各国の国内世論、国際関係が絡み合っています。自国そして他国の利益と主張を鑑み、対立を分解していく過程を「√」分解に喩え、デリにそうした意識を持ってほしいという願いのもとコンセプトに掲げました。様々な論点を構造化し、会議の趨勢を冷静に見極め、問題を明らかにしていく能力を育めるようサポートしていきます。

### ○会議の特徴

ボスニア・ヘルツェゴビナ情勢会議は、情勢会議でありながら「保護する責任（R2P）」や「人道的介入」といった新たな規範形成の側面も存在している会議になっています。今後の集団安全保障体制を左右しえる議題となっており、安全保障理事会という強制力をもった決議が採択される場であるため、将来の国際関係に大きな影響を及ぼすスリリングな会議となっています。

会議設計では特に各国の懸念を目的や主義に立ち返って解消していく交渉を目指しています。インフォーマルの議論においても、文言交渉においても、表面上の言葉の差異に執着すると細かい対立が浮き彫りになってしまいます。そのように文言上で懸念を解消しようとする、お互いが妥協しあいながら合意をしていくような交渉になってしまいます。当会議では人道危機の収束というすべての国に共通している目的や主義が大枠の合意として存在している中で各国の懸念を解消していきながら全体の利益を調整していく交渉を目指しています。

ボスニア・ヘルツェゴビナ情勢会議は、情勢会議でありながら「保護する責任（

R2P）」や「人道的介入」といった新たな規範形成の側面も存在している会議になっています。今後の集団安全保障体制を左右しえる議題となっており、安全保障理事会という強制力をもった決議が採択される場であるため、将来の国際関係に大きな影響を及ぼすスリリングな会議となっています。

会議設計では特に各国の懸念を目的や主義に立ち返って解消していく交渉を目指しています。インフォーマルの議論においても、文言交渉においても、表面上の言葉の差異に執着すると細かい対立が浮き彫りになってしまいます。そのように文言上で懸念を解消しようとする、お互いが妥協しあいながら合意をしていくような交渉になってしまいます。当会議では人道危機の収束というすべての国に共通している目的や主義が大枠の合意として存在している中で各国の懸念を解消していきながら全体の利益を調整していく交渉を目指しています。

### ○会議監督より一言

お世話になっております。ボスニア・ヘルツェゴビナ情勢会議、会議監督を務めさせていただく京都研究会老メンの久保裕貴です。私事ではあるのですが、これまで5年間模擬国連を続けてきて、初めて会議監督を務めさせていただくことになりました。

この会議に興味を持たれた方は、ぜひアプ前メンターにお越しく下さい。皆さんのこれまでの模擬国連についてぜひお聞きしたいです！

## 7. お問い合わせ

---

お問い合わせはメールにて承っております。  
お問い合わせの際は、お名前・ご用件を明記いただくよう、お願いいたします。

Email: [kmunc25info@gmail.com](mailto:kmunc25info@gmail.com)

## 8. 公式HP・SNS

---

公式HP・SNSでは大会に関するさまざまな情報を発信しています。  
ぜひご覧ください。

HP : [kmunc.org](http://kmunc.org)  
Twitter : [@KMUNC](https://twitter.com/KMUNC)  
Instagram : [@kmunc\\_press](https://www.instagram.com/kmunc_press)



## 9. 事務局員紹介

### 代表

---

事務総長	武田もなみ	同志社大学 法学部 3年
------	-------	--------------

### 総務部

---

統括	竹本亜純	大阪大学 法学部 3年
総務	八木彩夏	関西学院大学 総合政策学部 4年
総務	伊藤翼	金沢大学 融合学域観光デザイン学類 3年
総務	前田栞奈	神戸市外国語大学 外国語学部 3年
総務	藤原優里	立命館大学 総合政策学部 2年
総務	久次米暖	神戸大学 経済学部 2年
情報処理	山田利晶	同志社大学 法学部 3年

### 渉外部

---

統括	澤田篤希	同志社大学 経済学部 3年
渉外	堺凌	同志社大学 政策学部 3年
渉外	甲斐瑞己	同志社大学 政策学部 3年
渉外	梶野天歌	金沢大学 人間社会学域法学類 2年

### 研究部

---

統括	谷口真凜	神戸市外国語大学 外国語学部 3年
補佐	上野茜	同志社大学 グローバル地域文化学部 4年

### 財務部

---

統括	山本晴菜	鳥取大学 医学部 3年
財務	山本彩人	神戸市外国語大学 外国語学部 2年
補佐	腰越翔太	神戸市外国語大学 外国語学部 4年

### 事業部

---

統括	江下武	同志社大学 グローバル地域文化学部 3年
企画・広報	丹部心美	同志社大学 文化情報学部 3年
	斎藤由貴	同志社大学 法学部 3年
	小野夏蓮	同志社大学 グローバル地域文化学部 3年
	加古和裳	愛知大学 国際コミュニケーション学部 2年

物販・デザイン

近藤健心	神戸市外国語大学 外国語学部 4年
本澤杏実	神戸市外国語大学 外国語学部 3年
堂本修寿	同志社大学 理工学部 4年
田形萌々花	同志社大学 文学部 3年
大森裕花	同志社大学 法学部 3年
漆戸梓	同志社大学 文化情報学部 3年
宮本紗季	同志社大学 法学部 3年